一般の部　テーマ　近江八幡の未来を考える

☆　最優秀賞　『私の提案』～幼稚園と托老と～

原　幸代

近江八幡に住み始めて丸３０年たちました。これからもこのまちに住みつゞけたい、と思ってます。

京都へ３０分、新幹線に乗れば、東京だって三時間足らず、滋賀県に住んでる、というと、文化果つる所にいる様に見られますがとんでもありません。その上、緑も、田んぼも、新鮮野菜の朝市もあり、車で１０分も走れば、ビワ湖の眺めを手に入れられます。台風も地震も何故か避けてくれるし・・・。唯一気になるのは若狭湾の原子力発電所、あの一つが事故るとビワ湖は死ぬんですから。

とまれ、私が２４年前に始めた「子供文庫」でも当時、プレゼントに２５０個もマドレーヌをやきましたのに、今はたなばたの笹の用意も５０本でいゝのです。話に聞く少子化は現実なのです。そして、私も周りの友達も確実に年を重ねてます。コンピューターが出来ても一人一台の電話が手に入っても、それを動かすのは人間です。あたゝかい心の人間、思いやる心の人間が育ってないと、道具は悪魔にも変身するのです。

私の提案は幼稚園と托老所を合体させることです。私の住む金田学区の場合、家の子が入園するときに新設されたのですが、今や、一階分の子供しかいません。二階はあきスペースになっているのです。幼稚園の子供の足で通える所ですから、老人たちも通えるでしょう。まず朝一緒に手をつないでいく所から所内でいる時間の半分なり四分の一なりを一緒にすごし肩たゝきをし合ったり、じゃんけんをし合ったり、現役時代の早く早くというペースとちがった、ゆっくりとした時の流れを経験し、おとしよりも自分のペースですごせる時間で、自分をとりもどせる

でしょう。としより組・幼稚園組、各々のカリキュラムも終えたらまたゆったりと手をつないで帰りましょう。時にお母さん方にボランティアしてもらって、一緒におひるするのはどうでしょう。私もそうしてきたのですが、綱を持って、お母さんに引っぱられるように歩いているのは、余り見たくない図です。母親以外の大人がいて、いたわり、時にいたわられる膝があるぬくもりは、思い出すと心がフンワリします。きっと、気の合うおとしよりも出て交流は色々出来ると思います。

幼稚園のあいたスペースがそんな風に使われて、近江八幡の未来の人材をゆったりと育て、又、おとしよりも心豊かになれると嬉しい、と思うのです。差し当って、週に一回でも実現しないものでしょうか。

これが私の提案です。

終